

2021年6月6日 礼拝説教要旨

詩編講解説教63「あなたはわたしの神」

詩編63：2～6、ヨハネ20：24～29

あるアメリカのルター派の神学者が書いた注解書があるのですが、この人はとてもユニークな注解をしていて、よく讚美歌や世俗的なロックやジャズなどの音楽を解説の中で引用しています。詩編はそもそも歌、歌集ですから、それは現代の音楽にも通じるものがあるでしょう。この第63編の注解では「Body and Soul」というジャズのスタンダードを引用して、この歌とこの詩は共通しているということを書いています。この歌は、ビリー・ホリデイやサラ・ヴォーンといった多くのジャズシンガーがカバーして歌っているのですが、内容は失恋の歌でして「わたしの毎日はあなたを失って、身も心も、空しくなってしまった。わたしはあなたのもだから」という内容です。恋人がいなくなることで、ぽっかり心に穴が空いたような感覚、もぬけの殻になる経験。失恋に限らず、大切な何かを失うことで、身も心も空しく感じる。好きなドラマが終わる、好きな俳優が結婚する。それだけで喪失感を感じる人も多いでしょう。これまで当たり前のように側にいた人が近くにいない。それは大切な人との死別もそうです。そういう喪失感誰しもが抱くと思います。

この詩人が体験している喪失感、もっと根本的なものでして、今日のところにも出てきましたが、魂（ネフェシュ）が空しくなる。そしてそれにもなって体も渇き果てている。まさに body and soul、身も心も空しくなる体験がそこにあります。その命そのものが渇いているのです。「わたしはあなたを捜し求め、わたしの魂はあなたを渇き求めます」（2節）神さまを求めて、その命が渇いている。つまりこの詩人は神さまを見失った状態にあります。その原因はよく分かりません。見出しには「ダビデがユダの荒野野にいたとき」（1節）とあります。ダビデが荒野野にいるということならば、それはサウルから逃亡していることを考えることができます。追い詰められ、命の危険を感じる時、そういう極限状態の中にある時に、わたしたちは神さまを見失う。神さまは自分を見放された。その極度の緊張の中で魂だけではなく、体も渇くのです。

ここで思い起こすのは、主イエスが十字架の上で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれたことです。あの十字架はまさに極限状態です。そこで神さまから見捨てられたと感じる。神さまを遠くを感じる。さらにヨハネ福音書は、その十字架の上で主イエスは「渇く」と言われたと記します。ですからこの詩人が経験している命の渇き、身も心も空しくなり、渇く経験をイエス・キリストがああ十字架で経験されました。

ですからこの命の渇きとは、他でもないわたしたちの罪の状態を表していると理解することができるでしょう。神さまから遠く離れ、身も心も渇ききってしまう。罪は人間の命の中心である神さまを失うという極限状態です。この詩の冒頭の言葉「神よ、あなたはわたしの神」（2節）ここに神さまと人間の関係性が示されています。「あなたはわたしの神」誰のものでもない。わたしのもの、わたしの神さまである。そういう強い属性、所有を表しています。ジャズの名曲「Body and Soul」のように、恋人がいなくなってしまうことで、もぬけの殻になる。あなたはわたしのもの、わたし自身。そういう自分の中心がいなくなることですべてが空しくなってしまう。人間の罪というのはそういう状態なのです。神さまを失い、もぬけの殻になる。この罪のまま生きていくというのは耐えられないことではないでしょうか。

でも、それは神さまも同じではないでしょうか。神さまの似姿として、まるでご自身の分身のような存在として造られたわたしたちが罪を犯し、観前から失われていることを神さまは誰よりも悲しんでおられます。だからこそ神さまはこの罪からわたしたちをお救いになられるのです。イエス・キリストを与えて、あの十字架においてわたしたちの罪、魂の渇き、空しさを負ってくださった。主がわたしたちに代わってもぬけの殻になられたのです。でもそれはわたしたちをご自身の命で満たすためです。かけがえのない命をわたしたちに注ぎ尽くしてくださる。そのために主は十字架で死なれ、三日目によみがえられました。そのようにして空っぽの魂に命の息をもう一度吹き込んでくださったのです。この救いが詩編63編にも見られます。「わたしの魂はあなたを渇き求めます」(2節) から「わたしの魂は満ち足りました。乳と髓のもてなしを受けたように」(6節) 渇ききった魂がもてなしを受け満たされるといふ驚くべき飛躍がここにありま。この飛躍こそキリストの救い、十字架とよみがえりの御業を表しているということはいふまでもありません。そういう意味でこの詩編もキリストの救いを雄弁に物語っていると申し上げてよいでしょう。

今日はヨハネ福音書にあります、よみがえりの主がトマスに出会われた御言葉を読みました。疑い深いトマスは、よみがえりの主に出会い、その命の息を吹き入れられて魂を回復しました。そしてその口には「わたしの主、わたしの神よ」といふ信仰告白があります。それは今日の63編の冒頭「神よ、あなたはわたしの神」(2節)に通じています。キリストによって魂が満たされたのです。もはやもぬけの殻ではない。人間が生きる中心が据えられた。イエス・キリストがこの救いを成し遂げてくださいました。

地上で唯一、キリストの満たしを感じる事ができる場所が礼拝です。「今、わたしは聖所であなを仰ぎ望み、あなたの力と栄えを見えています」(3節) 古来、教会はこの詩編を日曜日の礼拝で繰り返し朗読したと伝えられています。わたしたちは一週間の生活で身も心も疲労困憊しています。特にこのコロナ禍で魂の渇きはいよいよ切実です。御言葉に与るとき、その魂が潤され、最高のもてなし、キリストの命に与るもてなしを受ける事ができる。わたしたちの心にぽっかり空いた穴、深い喪失を満たすのはキリストの命だけです。礼拝でこのキリストのもてなしを受ける事がわたしたちの本当の生きる力になります。